令和３年度　特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

春日井市立篠木小学校

１．本校の教育目標

個性を生かし、創造性の伸長を図り、心身ともに健全でたくましく、心豊かに生きる児童を育てる。

○　よく考えすすんで学ぶ子
○　仲良く助け合う子
○　健康でたくましい子

＜校訓＞　たくましい　からだと　こころ よく勉強し　よく運動し　よいことをする

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

小学校第１～６学年において新教科「書道科」を新設する。第１学年は、国語を 30 時間、生活科を４時間削減して新教科に充て、第２学年は、国語を 30 時間、生活科を５時間削減して新教科に充てる。第３～６学年は、国語を 30 時間、総合的な学習の時間を５時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

（２）特例の適用期間

平成２８年４月１日～令和１１年３月３１日

（３）実施学年

１年、２年、３年、４年、５年、６年、（特別支援学級　単独でも実施）

（４）地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和１１年から戦争中も途切れることなく開催され、第１回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

（５）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

２に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

３．特別の教育課程の実施状況に関する評価

（１）評価の観点

①　特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか

②　教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

（２）自己評価

児　童	・とめ、はね、はらいだけでなく、線の太さや長さなどの細かいところも教えてくれたので、気を付けるポイントがよく分かった。 ・書道科の講師の先生のアドバイスが分かりやすかったので上達できた。
教　員	・１年生から水習字を行うことで、基本の筆使いが身についており、３年生からの習字に役立っている。 ・１年生からの水習字のおかげで、習字に苦手意識をもつ子が少ないと感じる。自信をもって取り組むことができる児童が多い。 ・担任と書の時間の講師とで児童を褒めたりアドバイスをしたりすることで、児童の文字が上達している。
保護者	・水習字を楽しみにしている。子どもが３年生の習字も楽しみにしている。 ・「『書のまち　かすがい』と言われるわけを学校で勉強した」と子どもが教えてくれた。生まれ育った町に誇りをもってほしい。 ・書の時間の講師からのアドバイスは大変ありがたい。

（３）学校関係者評価

・落ち着いて文字を書くことができており、素晴らしい。 ・特別の教育課程として１年生から筆を持つ学習が生涯学習に結び付くと期待される。